

2025 年 7 月 27 日（日）第二礼拝「神様の安息とエデン」創世記 2 章 1～3 節

神様が天と地のすべての万象を六日間で完成され、七日目に休まれました。神様はこの七日目を祝福し、この日を聖とされました。これが神様の安息です。

第一番目、人間の初めの安息の日です。人間は六日目の最後に造られ、七日目の神様の安息に入りました。人間の一日はこの安息から始まります。神様は人間を安息のために造られ、人間を祝福するために呼んでくださいました。ですから、人間は神様の中で安息し、新たな力を受け、一週間をスタートするのです。安息とは神様との交わりです。歴史を見ると、安息の日(主日)に神様を礼拝していた西洋諸国は先進国となり祝福されました。しかし、主日に神様を礼拝しない仏教国、イスラム国等は貧しくなりました。イギリスの清教徒たちは信仰の自由のためにアメリカに移住しました。メイフラワー号での六十七日間の航海でも安息(主日礼拝)を守りました。アメリカに到着後、彼らは教会や学校を建てました。西部近郊を開拓する時も六日間は前進し、一日は安息のために休みました。しかし、安息を守らず、前進し続けた人たちはバーンアウトしてしまいました(燃え尽き症候群)。安息を守った清教徒たちは結果的に金も得ることができ、健康も守られました。ですから、安息は祝福なのです。

第二番目、エデン(喜び)です。神様は人間に安息とともに喜びを与えてくださいました。神様は人間をちりで形造り、鼻にいのちの息を吹き込まれました。人間がちりで形造られたのは、神様だけを頼るため、謙遜な者にするためです。すべてを手に入れたサタンは高慢になり堕落してしまいました。ですから、神様はあえて、ちりである人間を通して神様の栄光を表すようにしてくださいました。その人間に聖霊が吹き込まれ、エデン(喜び)に置かれました。私たちは主と共に十字架につけられ、共によみがえり、共に天の御座(主の喜びのところ)に座らせていただきました。天国はあちらこちらではなく、私たちのただ中にあります。つまり、私たちは主の喜びのただ中に置かれているのです。そのエデンにはいのちの木と善悪の知識の木がありました。善悪の知識の木は自由意志を表します。神様は人間に自由意志を与えられ、人間が善悪の知識の木の实を取って食べないことを自ら選ぶことを願われました。神様は人間を支配するのではなく、自由を与えてくださったのです。

第三番目、エデンを守ることです。いつも喜び、その喜びの心を守るために聖霊と御言葉が必要です。聖霊は、私たちに御言葉を慕い求める心を与え、喜びで満たしてくださいます。過去の約束や未来の約束(十字架とよみがえり、罪の赦し、病の癒し、イエス様の再臨の約束)も、聖霊によって私たちは今信じて受け取ることができます。しかし、もし私たちが人を赦せなかったら、御言葉を美味しく味わうことができません。また、聖霊は夢や幻で明確に示され、私たちの直観と良心にも働きかけ教えてくださいます。私たちが聖霊で満たされ、いのちの木の実(御言葉)をいただいて人を祝福する時、その人は変えられます。いのちの御霊の原理である御言葉(いのちの木の実)に聖霊が働かれ、私たちの心を守り、罪と死の原理(善悪の知識の木の实を食べること)から解放してくださるのです。アーメン！